もやし原料種子の更なる高騰について（2010 年産の緑豆について）

全日本豆萌工業組合連合会

主たるもやし原料種子である中国産緑豆の現状ついて、下記のとおりご報告申し上げます。

1. 今年の中国産緑豆の価格はどうなっているのか?

・09 年産のもやしの原料種子(中国産緑豆)が記録的な高騰となり、北海道産大豆の平均価格を上回る事態となったことは4月26日付の当連合会発信の文書でご説明いたしましたが、今年はそれを上回る事態となっています。
・現時点で当連合会が掌握している 10 年産緑豆の価格は、前年比 130～140%とのことです。

2. 収穫増なのに何故価格が下がらないのか?

・今年の中国産緑豆の収穫量は 45～50 万トン程度と推計されていますが、中国国内の需要だけで 50 万トン程度は必要と言われています。拡大する需要に収穫量が追い付いていません。
・昨年の記録的不作の影響で旧豆の在庫はほぼゼロの状態であり、新穀の収穫が待たれていました。
・この為、収穫前からいわゆる「青田買い」が始まり、高値からスタートした今年の取引価格は、下がることなく現在も上昇し続けています。
・日本では専ら「もやしの種」として使用する緑豆ですが、海外では穀物としての用途の方が多く、様々に利用されています。
・漢方に基づいた旧来からの食べ方に加え、生活水準の向上による飲料やアイスなどの加工食品の原料としての需要増、都市部で増加する日本同様の大規模もやし生産工場など、緑豆の需要は年を追うごとに増加し、品不足に拍車をかけています。
・現地のもやし販売価格は一袋50円程度ということですので、原料種子の高騰によるコストを適正に価格に反映させることが出来ている模様です。つまり、原料種子の高騰に対して十分な競争力を備えているということが言えます。
・高い価格でも売れるのなら、価格が下がる筈はありません。しかし、日本のもやし生産の現状と照らし合わせると、現在の原料種子価格は採算が合わないレベルにまで高騰しています。

3. 価格が高いのに作付面積が増えないのは何故か?

・経済が発展し、生活水準の向上・消費拡大の進む中国では、政府によって大豆・トウモロコシの増産が奨励されています。緑豆の主産地である吉林省などは、これら穀物の産地でもあります。よってこの政策の影響を受け、大豆・トウモロコシに比べるとまだ価格が低く、優先順位も低い緑豆の作付面積は今後も大幅な拡大が期待できません。
・年々伸び続ける需要に対して数年にわたって作付面積が増えず、収穫が増えないという状態が続いています。

4. もやしが店頭から消える日も近い?

・このように、「もやしの種」を取り巻く国際環境は年々厳しさを増しています。
・昨年は停滞する景気の影響が大きく、原料種子の値上がりを価格に転嫁することが出来なかった各生産者は、経営努力により生産コストの上昇を吸収しました。
・今年の春お届けした文書、「もやし原料種子の高騰について(続報)」に於いて、現在の低価格販売や、更なる値引き要請は日本のもやし生産者が高騰する原料種子を仕入れられなくなる事態を招きかねない、という懸念を申し上げました。残念ですが、私達の予想より早くこの事態が見えて来ています。
・昨年の原料種子の価格高騰を必死の企業努力で吸収した私達生産者にとって、今年の更なる原料種子価格高騰によるコストアップを吸収する余力は、もはや残っておりません。
・もやしが廉価販売の対象とされ店頭価格の下落が始まった当時、原料種子の価格は今年の相場の半分以下でした。時が経ち産地の経済状況も変わった今日、私達生産者がお願いしたいのはもやしの適正な価格でのお取引です。

昨年から今年にかけて、もやし関連の沢山のレシピ本が出版され、もやし用調味料が販売されました。ますます食卓に上る機会の増えたもやし。私達はこの事に感謝し、これからも皆様に愛される食材として安心してお召し上がりいただきたいと考えています。

安定供給というもやしの持つ使命をこれからも維持する為にも、かかるコストアップを適正に価格に反映させていただくことが出来ますよう、皆様のご理解を賜りたく何卒宜しくお願い申し上げます。